

No.	祭礼名	由緒
1	御姥尊・長福寺	会津地方に見られる御姥尊への安産祈願は全国的に特異な例。御姥尊とは三途の川の奪衣婆をかたどった像。御姥尊の作られた時期等については定かではない。毎年七月一日はご開帳の日に当たり、お日市も盛んに行われてきた。妊婦が参りし、飯べらを借り、安産のあかつきにはお礼参りに飯べらを二枚奉納する習わしがある。
2	藤森稲荷神社	藤の大樹があったため、藤森の名が冠せられ開花の季節には、まことに美景であったと伝えられる。
3	安光賀稲荷神社	葦名直盛が陰陽師安部清明の孫安光に依頼して稲荷神社を勧請したが、実際は国人（こくじん）の斯質（しが）があつたので安光に賀を加えて名称としたとされる。また、この神社には、ある侍の母親がお産で苦しむ狐を助けたところ、翌朝お礼に甘瓜が置かれていたという狐の恩返し伝説が残されている。
4	三寶胞衣荒神社	草創は葦名氏の正和年中（1312～1316）とされ、湯川あたりにあったものを文禄元年（1592）に蒲生氏がここに移し、火難除・安産の守護神として祀った。
5	大日如来・弥勒寺	諏波山龍華院と号し、応永32年（1425）、武州（関東）から来た秀哉という僧によって開山された。延享元年（1744）3月9日夜子の刻（午前零時頃）出火した火事で全焼、その後も安永2年（1773）の大火をはじめ、数度の火災に遭い、昭和2年に至ってようやく現在の本堂が再建された。昭32年観音堂と大日堂が一つになり現在に至る。
6	田中稲荷神社	芦名氏のころ黒川城内の田の中にあつたが蒲生氏郷公が築城の折、郊外の現在地に遷宮したと伝えられる。境内には、松尾神社、稲荷社などがある。毎年正月10日の初市（十日市）に初穂と称した稲を植え、その年の福を願って俵を引き合つた。
7	福満虚空蔵尊・興徳寺	興徳寺の開祖は中国南宋代、西蜀（四川省）の人、鏡堂覚円である。弘安10年（1287）芦名氏4代泰盛は覚円を会津に招き、造営に着手し、山を瑞雲、寺を興徳と名付けたといわれ、会津に初めて臨濟禪が伝えられたのはこの時という。興徳寺と町内会が縁日を執り行う。堂前にある鉄牛を紅白の幕で囲い、角に紺の鉢巻きをする。蒲生氏郷墓がある。
8	天光稲荷神社	その昔、箕川街道近くの田の中の小高い所にあつた。お日市は春にうなった田土が乾燥する頃で、子供たちが土を打ち付けあつて遊んでいるうちに、大祓いをして帰る途中の神官に当たったりしたことから、「土打ちつけ稲荷」ともいわれた。後に七日町駅踏切の西方へ遷したが、店が出来て一人がやっと通れる参道に狭められてしまったため昭和五十一年、現在地に遷したという。
9	鶴ヶ城稲荷神社	鶴ヶ城稲荷神社は蒲生氏郷氏が天正十八年に甲賀町（当時日野町）鎮座の守護神として創建した。戊辰戦争の鶴ヶ城落城に際し、城内の稲荷神社御神体を甲賀町稲荷神社に移し合祀安置して以来、鶴ヶ城稲荷神社と改称して今日に至っている。
10	荒神社	元応2年（1320）の建立といわれ、天文22年（1553）正福寺の僧の称説が再興したといわれる。神明神社の兼務。かまどを守る神の奥津彦命（おくつひのみこと）、奥津姫命（おくつひめのみこと）、火産夫命（ほむびのみこと）と、火を守る神が祀られている。
11	石塚観世音菩薩	昔、堂はもつと東寄り湯川に面していたのでその岸辺から石塚の人々とその他有志の人が自分で鴨形に張子で作った燈籠を流していた。これは蒲生忠郷公の母（徳川家康の娘振姫）がこの観音様を厚く信仰して建立され、毎月十六日には城府から参詣に来られ、この日に流燈されたのが始まりとされる。この風習は戦後までつづいた。
12	熊野神社	久寿二年（1155）佐原義連の父三浦介義明に、下野国那須野の妖狐退治の勅命が下り、義明は紀州熊野宮に祈って見事この大任を果たしたため、この神を尊崇し、義連の時に勧請したといわれている。
13	八幡神社	源義家朝臣が羽羽国の清原武衡を討った際に八幡の社を建立した。その際に土を一箕ずつ手渡しで運ばせて八幡神社の社殿のある山を築いたためこの山を一箕山と呼び、一箕山八幡神社とも呼ばれる。
14	笠間稲荷神社	守護神は茨城県の笠間から会津のこの地に移された。水商売、勝負をする人の参詣が多く、遠来の信者も多いという。
15	鬼渡神社	寛文年間（1661～1672）、蚕養国神社の末社として創建された。信仰のために放した鶏（主に雄鶏）がいたので鶏林（主に雄鶏）と伝えられる、鬼渡を鶏林（にわとりはやし）と誤って地名とした。雄鶏の元気な声にあやかって咳喘の病（百日咳やおたふく風邪でひどい咳をする人）に御利益があるとされた。この社に掲げてある鶏の絵馬を一枚借りてきて、家の台所にかけておき、毎朝水をかけて快癒を祈る。治れば絵馬を二枚にして、御礼参りをするという。
16	赤沼稲荷神社	葦名氏の祖佐原義連が、文治五年（1189）会津を拝領した際に、赤沼内膳が鎌倉から追ってきた。義連はこれを喜び、社を建立し、内膳を神職にし、赤沼稲荷神社と呼ばれて人々の崇拜を集めた。伊達政宗の侵攻によって荒廃したが、文禄年間蒲生氏郷の城下建設の際に、行者（修行僧）行寿により再興された。
17	豆腐地藏尊	もとは下四ノ町の方にあつて中御堂地藏尊と呼ばれていたが、中央通りをつくる折、現在地に西向きに移された。昔から町、家内安全のほか、夜泣きする子の親や祖母が豆腐を供えて拝むと泣かなくなるというので、当日豆腐をもって遠くからくる人もある。
18	櫻ヶ岡出世地藏尊	寛永十四年十月島原に内乱が起こり、保科正之公の家臣安部井又左衛門が君命により、反乱鎮撫に参加した際、石の地藏尊の御体を借り、これを盾として手柄をたて大いに面目を施した。この功績を地藏尊の巧徳と感激、これを背負い帰国し、信仰怠りなく以後出世を重ねたという言い伝えがある。
19	柿本稲荷神社	いつの頃か地頭荒川大炊助が草創とされる。安政六年（1859）芭蕉一五〇回忌に建てられた松尾芭蕉の句碑が門柱の傍にある。戊辰の役では、越後街道に面していたことから、市内の西口の最重要地点となり、激しい戦いの場となり家々すべて灰燼と化してしまつた。そのため草創についても定かではなく、しばらくは無住の状態であった。昭和二十五年、豊田信之師が跡を引き継いだ。
20	愛宕神社	その昔、門田の荘の沼に大蛇がおりハタを大変に困らせていた。それを知った玉泉という修験者が大蛇を追い払い、愛宕山権現を勧請、それ以来大蛇の害はすっかりなくなったと伝えられている。本殿内に掲げられている絵馬のうち四面が市の文化財に指定されている。
21	文殊菩薩・自在院	文殊菩薩は智恵の仏で自在院では参道正面の立派な蔵造りのお堂に安置されている。応永三十年（1423）、葦名盛信の帰依により黒川城の西北諏方神社の側に開基創建され、文禄元年（1592）、蒲生氏郷の町割りの際に現在地に一切を移した。三代藩主正容の時代には、金剛寺・観音寺・弥勒寺とともに領内における真言四箇寺の一に定められ、触頭役寺として権威があつた。
22	柳原天満宮	菅原道真を祀つてある神社で、北野天満宮から分かれたといわれている。初めは湯川原の放水路の東にあつたが、川の洪水により移転したといわれている。
23	子育て地藏尊	町内のシンボルとして子どもたちの発育と町内の発展のため子育て地藏尊を建立した。
24	諏方神社	会津六社の一つ。葦名氏五代盛宗が耶麻郡の新宮氏を討つべく出征したときに、一人の禰宜と出会い、汝は必ず勝利するであろうと言われ、その禰宜を先頭にして進軍したところ、この日のうちに新宮氏は降伏した。盛宗はその神徳に感謝し信州諏訪から御神体を迎え、永仁二年（1294）八月にこの地に社を勧請した。神社名は本社の諏訪神社と同じでは恐れ多いとして、言偏を取つて「方」とした。
25	鶴ヶ丘稲荷神社	当神社は地域住民が心のよりどころを求め、総意のもとに鶴ヶ城稲荷神社の分神を昭和二十七年八月十二日、この地に奉祀し、鶴ヶ丘稲荷神社と呼称し全地域住民の氏神として建立された。
26	津島天皇社	夏の疫病予防のため、昔からきゅうりを供えてお参りをする。この祭神素戔鳴命（すさのおみこと）は織田信長が厚く信仰していた。祭祀にあたって家紋のきゅうりの切口に似ていることから、きゅうりを供えるようになったといわれる。現在もきゅうりの神様として親しまれている。
27	八角天満宮	八角神社境内にありもともと七月二十五日に祭礼を行っていたが、現在は八角神社と一緒に七月三十日に行っている。学問の神様。
28	八角神社	大同二年（807）の創建で、祭神は伊弉諾尊（いざなぎのみこと）、伊弉冉尊（いざなみのみこと）。神話では、この二神が天翔船に乗って降り立ち、投げた鉢が「八角の水晶」になったため社殿を建て、伊弉須弥神と崇め八角神社と号したとされている。
29	住吉神社	葦名直盛（七代）は黒川（若松）に築城した際に、至徳元年（1384）会津の繁栄のために農工商の守護神である住吉大神の勧請を発願し、築田盛胤に命じて京都に上らせ、將軍足利義満より許されて大坂住吉大社の分霊を、材木町の川原に勧請し奉鎮したのが始まり。
30	蚕養國神社	由緒ある神社であるが古くは廃れてしまつた時代があり、その後保科正之会津に入封し、同社の廃頽を憂い、寛文四年（1664）、祠跡をもとに社地をひろめ、宮殿を造営した。養蚕の神なので蚕がよく育ち、よい繭がたくさんとれるように祈願した。
31	崖薬師如来	右岸（東岸）が崖なのでその名がついたのだろうと言われる。大正時代に移転、昭和八年に改築された。
32	中川原大日如来	大日如来は真言宗の御本尊で知恵の光明をもって昼夜の別なく宇宙の万物をあまねく照らす仏様。特に未、申年生まれの人々の守り本尊といわれ、また二歳児の守護仏として尊ばれている。火災により昭和六十一年に再建されている。
33	小館稲荷神社	葦名直盛（七代）は、弘和二年（1382）この地に小さな館を築き、東端に稲荷神社を造成した。そして東黒川館の造営に努力した。そのため、この地は小館、西黒川と呼ばれた。二年後に東黒川館がほぼ竣工すると直盛はそこに移り、この地を融通寺に与えた。この地は町名にのみ融通寺町（本町）の名が残り、今日にいたっている。
34	神明神社	応安二年飯盛板神体を奉じ来る。蘆名氏深く信じて神体を勧請した。祭神は天照大神で合祀神は応神天皇、倉稻魂命（うかのみたまのみこと）、御伊勢様。お日市は、市の中心地のため人出も大変に多い。
35	大日如来大日堂	町内、家内安全、身体堅固を祈る。正確には九月八日だが子供会の協力を得るために夏休み中に実施することになり、数年前からこの日に行われるようになった。
36	福満虚空蔵菩薩・常光寺	開基の時期は不明だが、元々は律宗の寺として開かれたが、のち真言宗となった。元和年間（1615～1623）成秀の時代に天台僧正に唱し、比叡山の末寺となり天台宗に改宗したという。本尊は成秀が護持していたという阿彌陀如来で、他にも領主加藤義明が兜に付けていたという虚空蔵菩薩が安置されている。
37	六地藏尊	本尊である地藏尊は大川が洪水の時に流れ着いた大木から六体彫られたという伝承がある。子どもの守り本尊として信仰を集め、学校遠足の定番コースであった。門前茶屋の名物だった「棒たら」は会津の郷土料理として名高い。
38	館薬師堂・弘真院	館薬師のある妙覚山弘真院は葦名時代館であった。蒲生秀行の時代子の亀千代（後の忠郷）は大変病弱であった。このため亀千代二歳の時、北塩原の北山薬師（会津五薬師のひとつ）に参詣した。到着するまで歩くこともできなかった亀千代であったが帰路は元気に他人の手を借りずに下山したという。これが現在も行われている二つ見参りの由来である。
39	瑠璃光薬師如来・観音寺	その昔、今の橋本の先に刑刑場があり、その場所に立てられた如来様。現在は観音寺に祀られている。当時、訪れる人は消化が良く夏負けしない夕顔を持って参拝していたため「夕顔観音」とも呼ばれた。堂内に県重要文化財指定の涅槃曼陀羅、市文化財指定の胎蔵界曼陀羅がある。
40	石小稲荷神社	この祠は外濠の跡で石屋小平の屋敷稲荷でその二文字を取つて名前とした。昔は東山芸妓も大勢参拝に来て、盆踊りに参加、打ち上げ花火なども盛大に行われたという。
41	聖観世音菩薩・実相寺	安吉山と号し、開山は大光禪師で元徳年間（1329～30）に葦名家四天の宿老の一人、富田監物祐義（けんもつすけよし）の帰依によって創建された。その後、葦名氏の庇護を受けて、関東十刹にも列せられる隆盛を誇つたが、戊辰戦争により焼失し往時を偲ぶものはほとんど残されていない。
42	聖徳太子・光明寺	永禄元年（1558）に慶了という僧が創建した寺で、はじめは郭内五之丁にあつたが、天正九年（1581）に現在地に移転した。京都の浄土真宗西本願寺の末寺であり、聖徳太子が祀つてある。
43	千手観世音菩薩・千手院	僧・高清が文禄二年（1593）に開山。会津戦争では、病院代わりとなり、多くの戦傷者を収容して治療にあつた。本尊は、千手観音で、子年生まれの人に御利益がある。愛宕神社と同日のお日市なので、人々は帰りに参拝していく。
44	延命地藏尊	延命、福分、除難を出願する。大町の夏祭りとともに祭礼が行われている。その昔は善導、法然の法流をくむ念仏三昧の霊寺であった。
45	御造酒地藏尊	昭和五〇年ころ中央通りができるまで、桂松院に祈願勧請した。像は等身大の立派なものであり、会津はおろか、日本にたったひとつしかないといわれるお地藏様である、お造酒地藏がある。

※参考文献等：「会津大辞典」国書刊行会、「民族調査報告書（町方編）」会津若松市教育委員会、「会津の神社」「会津のお寺さん」「おんば様」歴史春秋社、町名歴史散歩「会津若松・町名の由来」、「会津の寺」会津若松市・北会津村の寺々、「会津若松お日市マップ」